

20180121 「サマリヤ伝道」

目標：御言と一緒に読み、その解説を聞く中で、イエス様のサマリヤの女への深い配慮を知る。

聖書箇所：ヨハネによる福音書4章1節～42節 時間：10分

暗誦聖句：「しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」
(ヨハネによる福音書4:14)

道具：ホワイトボード、ペン、

対象者：中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点：主のサマリヤの女への配慮と導きは、子どもたちには難解な面がある。サマリヤの意味や女の振るまいなどの前提をしっかりと説明し、やりとりの不思議さを感じさせたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	イエス様はサマリヤへ行かれました。理由は記されていません。どうしても行かなければならなかったとだけ書いてあります。		サマリヤのユダヤ、ガリラヤとの位置関係を板書し、サマリヤのユダヤとの歴史的敵対関係についても併せて述べる。
課題探究	6分	イエス様は、サマリヤのスカルという町にあったヤコブの井戸で、サマリヤの1女性に会いました。	7-12節を読む。	6時とは私達の昼12時に相当する事と、イエス様が疲れていたこと、暑いさなかに水をくみに来る異常性を提示する。彼女は町の人から嫌われていたのである。イエス様の11節の回答が、話の流れから飛んでいると言うことが、理解されれば良い。
		7節から12節まで皆で読みましょう。10節でイエス様は、何を言ったのでしょうか。	14-15節を読む。	イエス様が、彼女の生活には乾かない潤いがないことに気づいて言っておられるのだと、彼女自身が気づいたから、話がかみ合ったことを理解させる。
		では次の14-15節を読みましょう。何で二人の話がかみ合ったのだと思いますか。	16-19節を読む。	イエス様の、預言者としての姿であることを印象づけたい。
		イエス様と話が繋がってきたこの女性に、イエス様は次にどんな言葉をかけるのでしょうか。16-19節を読みましょう。 この女性は、びっくりしました。そこで、次の質問を投げかけました。神様の救いについての話でした。	21-26節を読む。	20節を教師が読む。
まとめ	2分	21節から26節を読みましょう。 この女性は、喜んで飛んでいって、皆にこの方がキリストかもしれない、だって、私の全部を言い当てたんだものと語り続けたのです。 彼女の話を聞いて、人々が続々自分で見てみようとしてイエス様の元にやってきたのでした。 イエス様は、サマリヤの女に出会って、おっ者あられたとおりに、彼女を活ける神の水で潤しました。 イエス様を信じると、みんなも心から喜びが溢れてきて、多くの人に神様の命の水を与えていくことが出来るようになるのです。 暗唱聖句		サマリヤの女は、町の嫌われ者だったことを思いださすセルと、この変化はより対照的になるだろう。 彼女の伝道のわざと理解するなら、これは驚くべき伝道である。引け目が、主によって最大ゲイ化されたのである。